

福岡病院での診療情報を下記の研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究代表者	本村 知華子
2. 研究課題名	小児アトピー性皮膚炎教育入院の現状と年齢による変化
3. 研究の概要 (個人情報利用の目的)	<p>[研究の背景] アトピー性皮膚炎は、増悪と軽快を繰り返す痒癢のある湿疹を主病変とする疾患であり、患者の多くは「アトピー素因」を持つ。特徴的な左右対称性の分布を示す湿疹性の疾患で、年齢により好発部位が異なります。乳児期あるいは幼児期から発症し小児期に寛解するか、あるいは寛解することなく再発を繰り返し、症状が成人まで持続する特徴的な湿疹病変が慢性的にみられる疾患です。年齢別の有症率は、乳児で6～32%、幼児で5～27%、学童で5～15%、大学生で5～9%と報告者により幅がみられるが、全体的には加齢とともに有症率は減少する傾向が認められています。</p> <p>近年経皮感作、経口免疫の理論に立つアレルゲン2重暴露仮説が証明され、小児アトピー性皮膚炎に対する乳児期からの早期介入が広まっているがその現状は明らかにされていません。そこで当科で行っているアトピー性皮膚炎教育入院(2泊3日)患者の現状と年齢による変化を明らかにする目的で調査を行います。</p> <p>[研究の目的] 当科で行っているアトピー性皮膚炎教育入院(2泊3日)患者の現状と年齢による変化を明らかにする目的です。</p>
	研究期間:承認後から2024年12月31日 (データ収集期間:承認後から2023年12月31日)
4. 使用する診療情報	診療情報内容:カルテ情報:教育入院を行った患者の年齢、性別、入院回数、皮膚炎重症度(EASI)、アトピー性皮膚炎以外の合併疾患、血清マーカー(好酸球数、IgE、TARC値)、治療内容、生物学的製剤使用、効果、中止年齢、継続期間など
	対象診療期間 2017年-2022年の5年間
5. 使用する検体	該当なし
6. 病名	アトピー性皮膚炎

① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会等において厳重に審査され、承認されています。また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。

② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いることを拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

☆お問い合わせ☆

国立病院機構福岡病院管理課
管理課長

住所 : 〒811-1394 福岡市南区屋形原4丁目39-1

電話:092-565-5534

FAX:092-566-0702

(お問い合わせは、なるべく、FAX又は郵送でお願いいたします。)